

編集後記

本号の巻頭言は横浜国立大学の宮田先生から「高齢化社会と自己啓発」とのテーマでご執筆いただきました。自己啓発の大切さを改めてご教示いただき、大変有り難く、誌面を借りて厚くお礼申し上げます。

最近、震災や交通量増大などによる補修・補強工事が急増しています。補修・補強工事は、新設工事に比べ取り合いが多く手間がかかり、合理化・省力化の妨げとなっています。補修・補強を必要としない構造物が理想ですが、実現するのは難しいことです。しかし、将来の労働力の減少を考えると、技術力の粋を集め補修・補強の少ない構造物を開発する努力が必要です。

一方、将来の労働力の減少を見越し、省力化のために少主桁橋梁やプレキャスト床版などの開発が進められています。このような新技術を開発していく上でも、耐久性を十分視野に入れ、後生に負担を残さない構造とすることが重要でしょう。

技報編集委員会

委 員 長	高 崎 一 郎			
副 委 員 長	成 宮 隆 雄	三 木 茂 喜		
委 員	石 川 通 陽	伊 藤 徳 昭	北 村 慎 悟	
	金 原 慎 一	小 林 裕 輔*	佐 藤 徹*	
	佐 藤 浩 明	坪 井 幹 男	内 藤 省 吾	
	永 見 研 二*	西 垣 登	能 登 宥 愿	
	長谷川 宜 宏	星 野 実	牧 野 克 彦	
	松 本 泰 成	森 下 統 一	吉 川 薫	

*印 事務局兼務

宮地技報 第12号

発行日 平成8年12月20日

発行所 株式会社宮地鐵工所

〒103 東京都中央区日本橋小伝馬町15番18号

(日本橋S Kビル)TEL03 (3639) 2111 (代)

印刷所 望月印刷株式会社